

カスタム機能説明書

リアルタイムデータ（XML ファイル）

(Nomoad Version 3.65 カスタム版)

このカスタム機能は、パソコン上のローカルディスクや、ネットワーク上の共有フォルダ、または Web サーバー上にある XML ファイルの更新を定期的にチェックし、更新された XML ファイルの内容をリアルタイムに表示に反映する機能です。この機能を使用して XML ファイルの内容をリアルタイムに表示するプレゼンテーションを作成できます。

応用例

- Web 上に文字情報を XML ファイルとして置き、その情報をリアルタイム表示。
- 外部のプログラムを利用して現在の発電量などの複数の文字情報を更新。

注意

- Web 上のファイルを指定する場合、サーバーへの負荷を下げるために更新インターバル時間を 60 秒以上に設定してください。また、サイズの大きなファイルを指定しないでください。

目次

XML ファイルについて.....	2
データタグについて.....	4
テロップ・一行文・文書部品でデータタグを使用する.....	6
表示条件の設定でデータタグを使用する.....	7
設定されたデータタグの内容を確認する.....	8
リアルタイムデータファイルの登録を行う.....	9
リアルタイムデータ表示更新の設定.....	11
リアルタイムデータ読み込みログの表示.....	13

XML ファイルについて

リアルタイムデータ（XML ファイル）機能で利用できる XML ファイルは下のようなデータです。

```
<?xml version="1.0" encoding="UTF-8"?>
  <datalist>
    <data index="yotei">今日の予定は●●です。</data>
    <data index="daimei">ようこそ</data>
    <data index="annai">ようこそいらっしゃいました。</data>
  </datalist>
```

①ファイルの文字エンコード（**encoding** 属性）

ファイルの文字エンコードを指定します。実際のファイルの文字エンコードと異なる指定の場合、正しくファイルを読み込みません。（テキストエディタで編集する場合はご注意ください）

例: "shift-jis" ... SHIFT-JIS でエンコード

例: "UTF-8" ... UTF-8でエンコード

②データインデックス（index 属性）

データのインデックスを記述します。Nomoad でデータタグを使ってデータを指定するときに使用します。英数字のみを使用してください。

③データの内容（data タグのテキスト）

データの内容を記述します。テキストエディタで編集する場合は、英数字と全角文字のみを使用することをお奨めします。

リアルタイムデータ（CSV ファイル）更新時の注意

- 編集したXMLファイルを保存する際、ファイルを保存する間隔を数秒以上あげてください。変更内容が表示に反映されない場合があります。
- 編集したXMLファイルを保存する際、稀に保存に失敗することがあります。その場合は時間を置いて再度保存をリトライしてください。

外部プログラムの作成者の方へ

- 外部のプログラムを使用して、ローカルディスクやネットワークの共有フォルダへXMLファイルを保存したり更新するときは、不完全なデータの読み込みを防止するために、ファイルのロックを行ってください。ロックを行うには、ファイル共有モードを排他指定 (***FileShare.None*** や、***dwShareMode:0***) でファイルをオープンし、保存します。

ローカルディスクや、ネットワーク上の共有フォルダにファイルを置く場合の注意

- XML ファイルを書き込むソフトや環境によっては、ファイルがロックされず、更新途中の不完全なデータを読み込んで表示してしまう場合があります。その場合は、MD5 ハッシュファイルを置き、XML ファイルの更新のたびに MD5 ハッシュファイルを更新することをお勧めします。MD5 ハッシュファイルについては下記「MD5 ハッシュファイルについて」を参照してください。

Web 上にファイルを置く場合の注意

- Web 上に XML ファイルを置く場合、不完全なデータの読み込みを防止するために、MD5 ハッシュファイルを置き、XML ファイルの更新のたびに MD5 ハッシュファイルを更新することをお勧めします。MD5 ハッシュファイルは下記「MD5 ハッシュファイルについて」を参照してください。
- FTP ソフト等を用いて XML ファイルをアップロードする場合、バイナリーモードでアップロードしてください。アスキーモードでアップロードした場合、アップロードした XML ファイルが変化してしまう場合があります。

MD5 ハッシュファイルについて

- MD5 ハッシュファイルを使用する場合は、「XXXX.xml.md5.txt」という名前 (XXXX.xml は対象の XML ファイル名) をつけ、更新後の XML ファイルの MD5 ハッシュ (16 進数 32 桁) を ASCII 形式のテキストで記述し、XML ファイルと同じ場所に保存します。MD5 ハッシュファイルは置くだけで機能しますので、使用しないときは削除してください。

データタグについて

リアルタイムデータ（XML ファイル）機能では、XML ファイル内のデータを指定するために下のいずれかのデータタグを使用します。タグの記述場所は P6「テロップ・一行文・文書部品でデータタグを使用する」や P7「表示条件の設定でデータタグを使用する」を参照してください。

①	②	③
<%EX_XML, "リアルタイムデータIDまたはXMLファイルパス", "データインデックス">		
<%EX_XML, "XMLファイルパス", "データインデックス", Web認証識別ID, 更新優先度>		
	④	⑤

①データタグのヘッダー

XML ファイルを使用するための記述です。

②XML ファイルとして登録されたリアルタイムデータIDまたはXML ファイルのパス

XML ファイルとして登録されたリアルタイムデータID（P9を参照）またはXML ファイルのパスを記述します。XML ファイルのパスを記述する場合、記述できるXML ファイルのパスは、ローカルファイルや共有フォルダ上のファイルの絶対パス、相対パス、Web 上のファイルのURL です。

例： `"*c_test"`（XML ファイルとして登録されたリアルタイムデータID）

例： `"D:¥Test.xml"`（ローカルフォルダの絶対パス）

例： `"¥¥ServerPC¥Share¥Test.xml"`（共有フォルダの絶対パス）

例： `"folder¥Test.xml"`または `". ¥folder¥Test.xml"`または
`"folder/Test.xml"`または `". /folder/Test.xml"`（相対パス）

例： `"https://www.example.com/folder/Test.xml"`（URL）

相対パスは、

（１）表示パソコンで NomoadPR で表示しているときはプレゼンテーションファイルからのパス

（２）編集パソコンで Nomoad を使用してプレビューするときはプロジェクトファイルからのパスが基準となります。

③XML ファイル内のデータインデックス

XML ファイル内のデータを指定するためのインデックス（<data>タグの属性「index」の値）を指定します。

④ Web 認証識別 ID

②で Web 上の URL を指定した場合、XML ファイルをダウンロードするときの認証 ID を記述します。認証 ID の設定は、Nomoad、NomoadPR でパソコンごとに別途行います。【P12】を参照してください。

記述しない場合は、認証を行いません。

また、他タグにて同一のファイルで異なる指定を行った場合、認証を行いません。

⑤更新優先度

②で XML ファイルパスを指定した場合、表示の更新優先度を記述できます。“1”(通常)または“2”(優先)を指定できます。

記述しない場合は、更新優先度は“1”(通常)として動作します。

タグの記述例 1 : `<%EX_XML, “*c_test”, “yotei” >`

リアルタイムデータ ID “*c_test”として登録された XML ファイルのデータインデックスが “yotei” のデータを指定しています。

タグの記述例 2 : `<%EX_XML, “¥¥ServerPC¥Share¥Test.xml”, “yotei” >`

共有フォルダ上のファイル「¥¥ServerPC¥Share¥Test.xml」のデータインデックスが “yotei” のデータを指定しています。

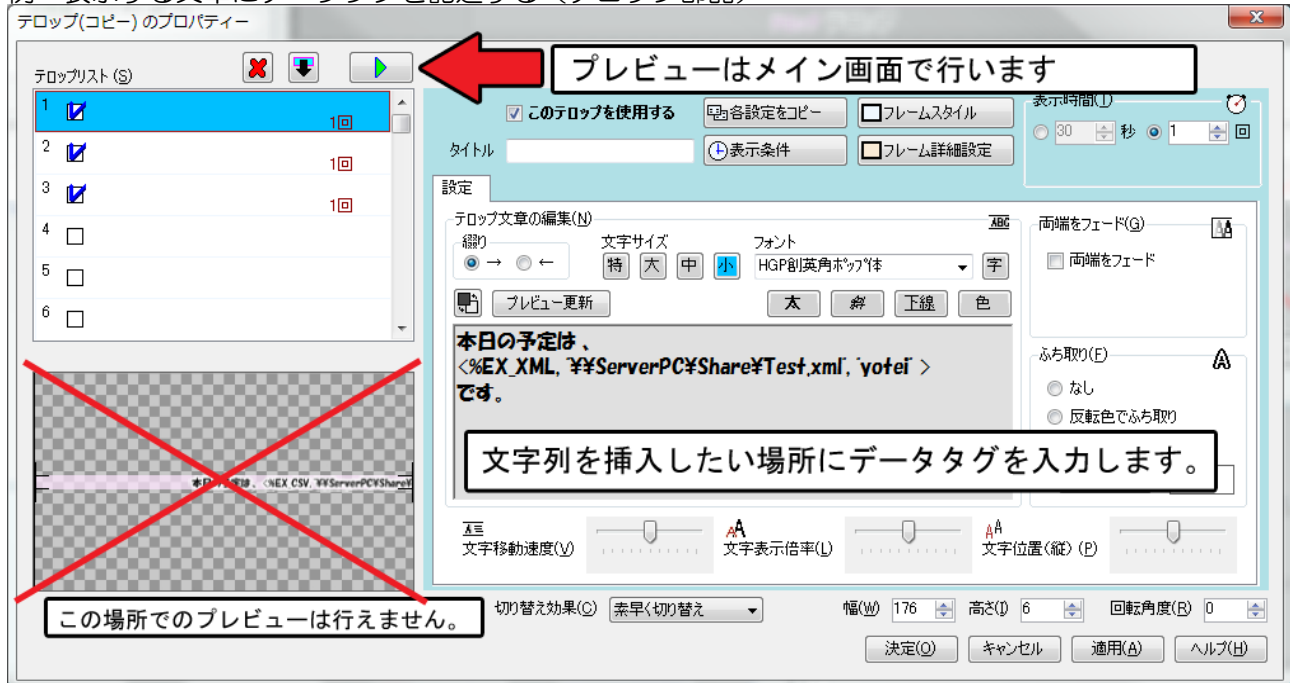
タグの記述例 3 : `<%EX_XML , “http://www.example.com/Test.xml”, “yotei”, “Web01”, “2” >`

Web 上のファイル「http://www.example.com/Test.xml」のデータインデックスが “yotei” のデータを指定しています。また、Web 認証識別 ID は、“Web01”を指定しています。更新優先度は “2”(優先)を指定しています。

テロップ・一行文・文書部品でデータタグを使用する

XML ファイル内のデータをリアルタイムに表示に反映するプレゼンテーションを作成するには、テロップ部品や一行文部品、文章部品のプロパティ画面でデータタグを記述します。

例：表示する文章にデータタグを記述する（テロップ部品）



文章内のリアルタイム表示したい文字列のフォント・文字サイズ・スタイル・色・文字コードを変更するには、データタグ全体を選択して変更します。データタグの「<」から「>」までの全ての部分を同じ設定にする必要があります。

また、文章内でデータタグを使用している場合、文章で使用するフォントがプレゼンテーションを行う表示用パソコンにインストールされている必要があります。インストールされていない場合は、他のフォントで表示されます。

注意：

データタグを入力した場合、各部品の機能が制限される場合があります。

（一行文部品）

- ・プロパティウィンドウの「枠のサイズを文にあわせる」の設定は無効になります。

（文章部品）

- ・プロパティウィンドウの「文書レイアウト設定」内の「枠のサイズを文章にあわせる」の設定は無効になります。

表示条件の設定でデータタグを使用する

表示条件の設定ウィンドウにデータタグを記述することで、部品の各項目や連動表示項目での表示可否の設定を、XML ファイルからリアルタイムに変更できます。

表示条件の設定

☒ 表示条件を指定する(E)

時間帯1(1)

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は表示する

時間帯2(2)

☐ 指定する

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は ☒ 表示する ☐ 表示しない

時間帯3(3)

☐ 指定する

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は ☒ 表示する ☐ 表示しない

時間帯4(4)

☐ 指定する

0 時 0 分 から
0 時 0 分

の間は ☒ 表示する ☐ 表示しない

リアルタイムデータタグ(B)

<%EX_XML, "%ServerPC%Share%Test.xml", "show_yotei" >

閉じる

データタグを入力します。

No.2
No.3
No.4
No.5
No.6
No.7
No.8
No.9
No.10
No.11
No.12
No.13
No.14
No.15
No.16
No.17
No.18
No.19
No.20

0 15:00 18:00 21:00 0:00

XML ファイルに下の 3 種類のデータを記述することで表示可否を指定します。

"SHOW"・・・表示を許可する

"HIDE"・・・表示を許可しない

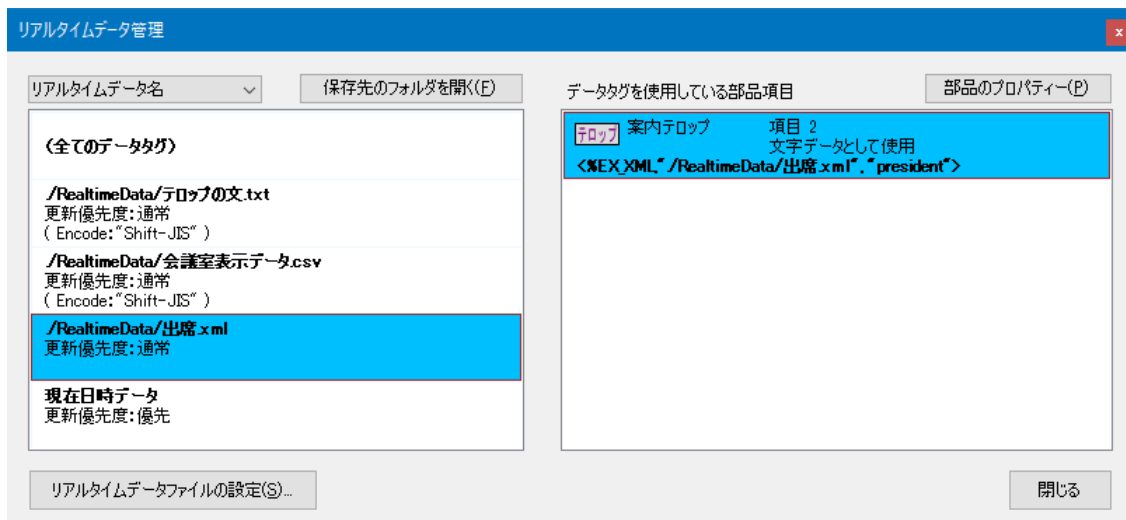
"NONE"またはその他の文字列・・・表示条件の設定画面で指定した時間帯を使用する

※設定された表示可否を Nomoad でのプレビューで確認したい場合は、 「プレビュー条件の設定」画面で、「部品プロパティで設定した表示条件をプレビュー時に適用する」を選択してプレビューを行います。

設定されたデータタグの内容を確認する

各部品のプロパティへ正しくデータタグを設定できたときは、「リアルタイムデータ管理」ウインドウ内にデータタグの情報が表示されます。

「リアルタイムデータ管理」ウインドウを表示するには Nomoad のメニューバーから「表示」→「リアルタイムデータ管理ウインドウ」を選択します。



リアルタイムデータファイルの登録を行う

XML ファイルをリアルタイムデータとして登録し、リアルタイムデータ ID 作成することにより、データタグの記述を単純化することができます。

各部品で記述するデータタグに、リアルタイムデータ ID を使用することによってデータタグの管理が楽になります。リアルタイムデータ ID は「*c_XXX」（登録したサブ看板でのみ使用できるリアルタイムデータ ID の場合は「*s_XXX」）の形式で任意に設定できます。

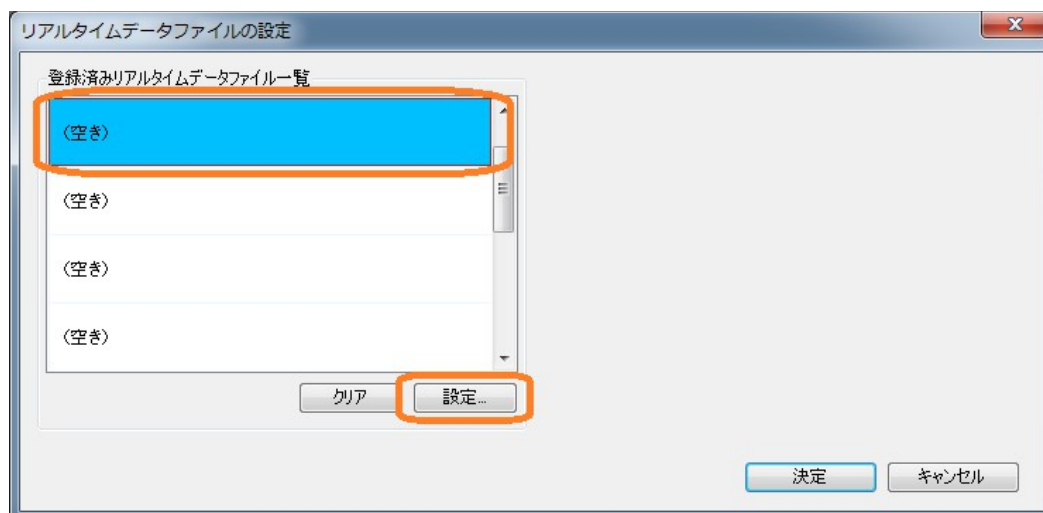
●XML ファイルをリアルタイムデータとして登録する手順

(1) XML ファイルをリアルタイムデータとして登録するには、メニューから「表示」→「リアルタイムデータ管理ウインドウ」をクリックします。

(2) 「リアルタイムデータ管理」ウインドウが開くので、「リアルタイムデータファイルの設定」ボタンをクリックします。

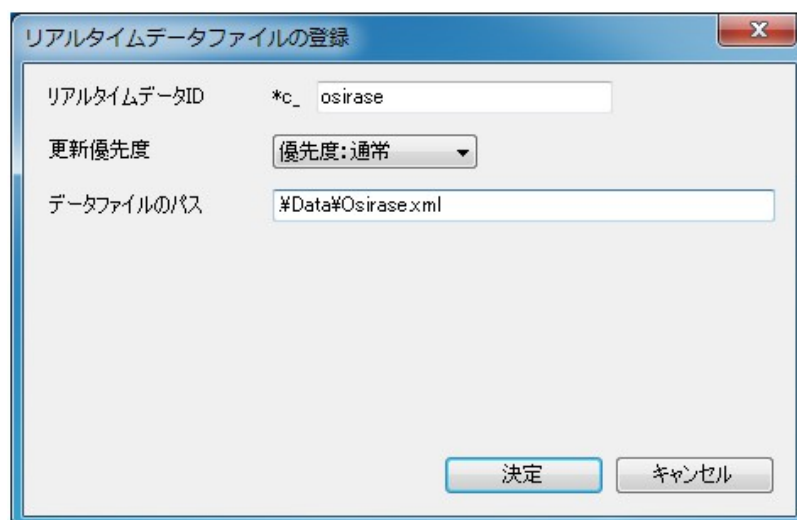


(3) 「登録済みリアルタイムデータファイル一覧」(サブ看板の編集のときは、「サブ看板の登録済みリアルタイムデータファイル一覧」) から、あいている項目を選択し、「設定」ボタンをクリックします。



(4) リアルタイムデータID と各設定項目を入力し、「決定」ボタンをクリックします。

(ローカルファイルの場合)



リアルタイムデータファイルの登録

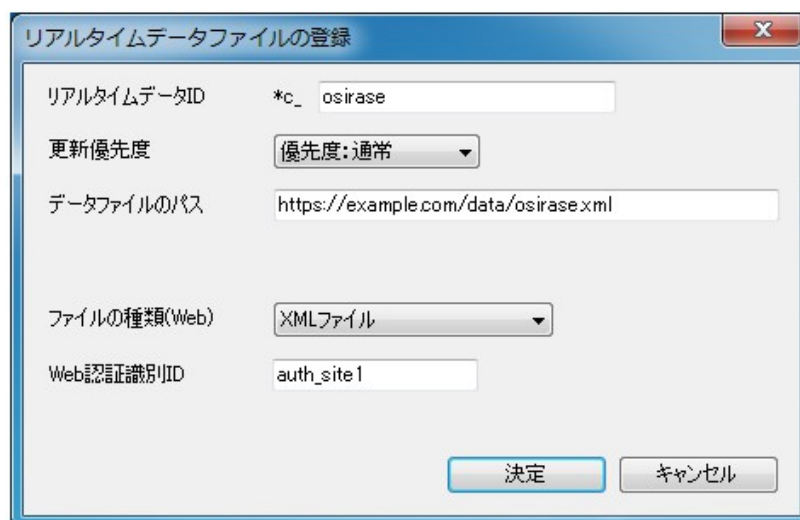
リアルタイムデータID *c_ osirase

更新優先度 優先度:通常

データファイルのパス #Data#Osirase.xml

決定 キャンセル

(Web 上のファイルの場合)



リアルタイムデータファイルの登録

リアルタイムデータID *c_ osirase

更新優先度 優先度:通常

データファイルのパス https://example.com/data/osirase.xml

ファイルの種類(Web) XMLファイル

Web認証識別子ID auth_site1

決定 キャンセル

各部品ヘデータタグを記述する際、ここで設定したリアルタイムデータIDを使用することにより、データタグの管理が楽になります。

それぞれの入力項目については、P4「データタグについて」を参照してください。

リアルタイムデータ表示更新の設定

リアルタイムデータタグを使用したデータ表示更新の設定を行います。

この設定はパソコンごとに Nomoad、NomoadPR それぞれに対して行います。Nomoad での設定はプレビューのため、NomoadPR での設定はプレゼンテーションのために行います。

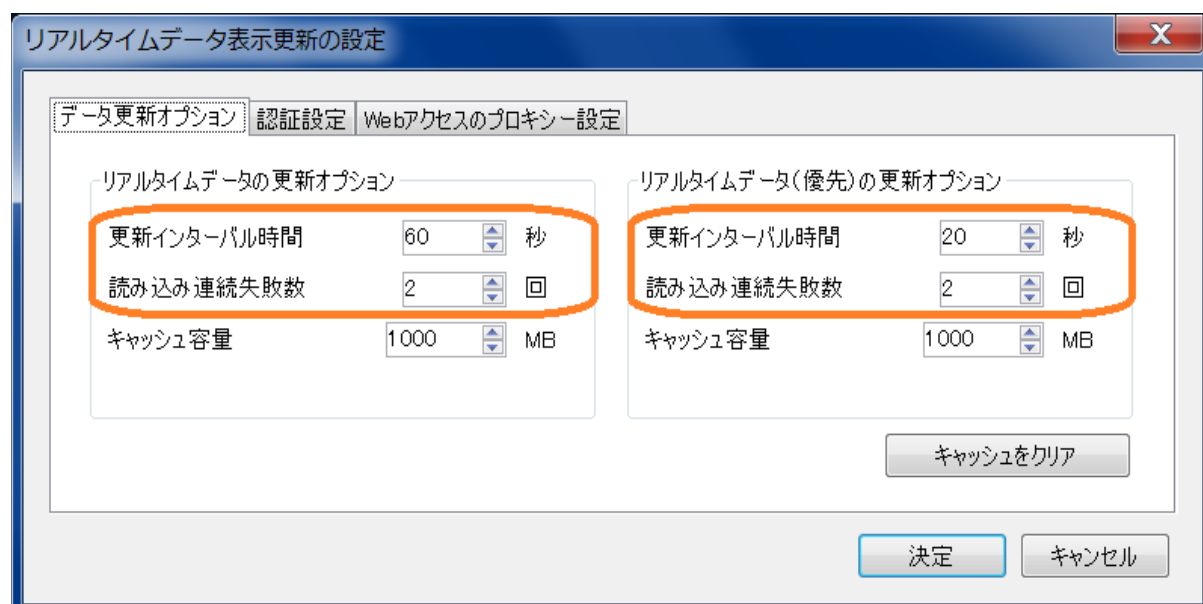
リアルタイムデータ表示更新の設定を行うには、

- Nomoad の場合はメニューから「ツール」→「リアルタイム表示更新の設定」
- NomoadPR の場合は、メニューから「設定」→「リアルタイム表示更新の設定」

をクリックします。

●データ更新オプションの設定

各データタグやリアルタイムデータの登録時に指定した更新優先度に応じた設定を行います。



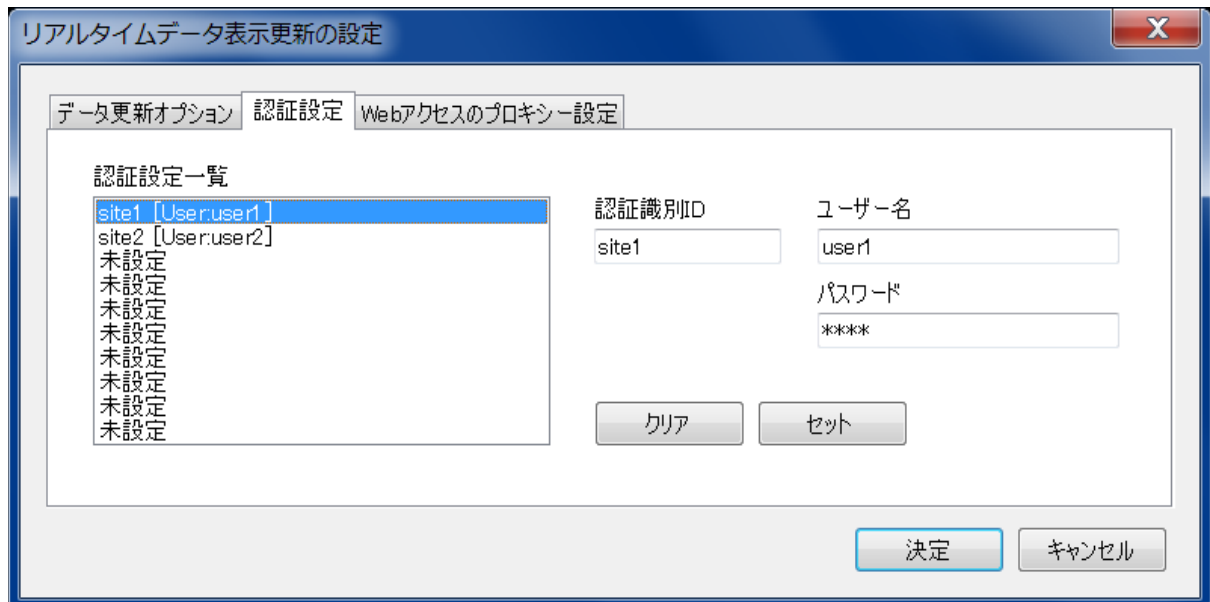
• 更新インターバル時間…ファイルの更新確認の頻度を設定します。20～600 秒（優先設定では 2～300 秒）の間で指定できます。Web 上のファイルを使用する場合は、60 秒以上に設定してください。

• 読み込み連続失敗数…ファイルの更新確認、読み込みにの失敗許容数です。-1 をセットすると常に失敗を許容します。設定した回数以上連続して失敗した場合は、エラー文字「 () 」 (カッコ) が表示されます。表示条件で設定してあるデータタグは "NONE" と同じ効果となります。

- キャッシュ容量…（使用しません）
- キャッシュをクリア…（使用しません）

●認証設定

Web 上のファイルを使用するとき、認証を行う必要がある領域にアクセスする場合、ユーザー名とパスワードを設定する必要があります。認証方式は基本認証（ベーシック認証）、ダイジェスト認証に対応しています。



ユーザー名とパスワードを設定するには、

- ①一覧から設定したい認証識別 ID を選択します。
- ②新しい任意の認証識別 ID と、認証を行うためのユーザー名、パスワードを入力します。
- ③「セット」ボタンをクリックします。

ユーザー名とパスワードを削除したい時は、削除したい認証識別 ID を一覧から選択し、「クリア」ボタンをクリックします。

●Web アクセスのプロキシ設定

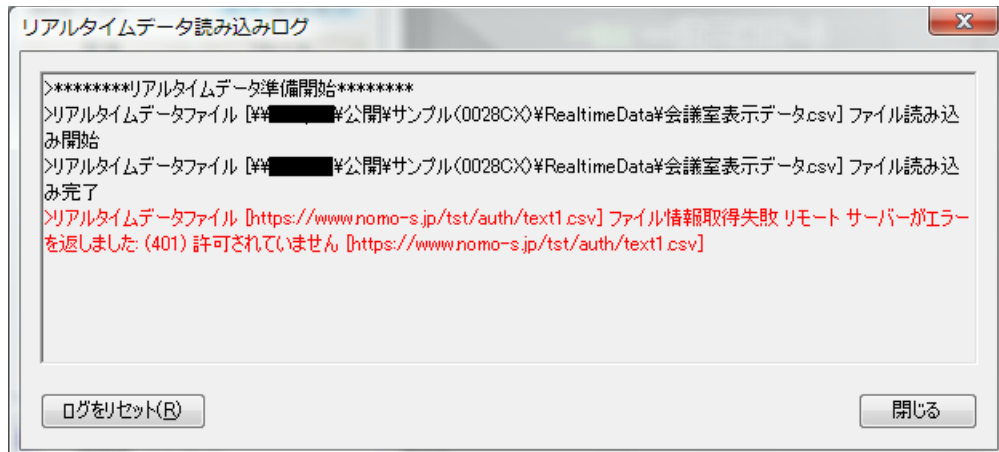
Web 上のファイルを使用するとき、プロキシの設定が必要となることがあります。ネットワーク管理者にお問い合わせください。

リアルタイムデータ読み込みログの表示

リアルタイムデータ読み込みログを表示することができます。

- Nomoad の場合はメニューから「表示」→「リアルタイムデータ読み込みログ」
- NomoadPR の場合は、メニューから「プレゼンテーション」→「リアルタイムデータ読み込みログ」

をクリックします。



Rev.1

©2026 NOMOSOFT

2026/5/18